オープンソースを用いた社内情報共有
―企業情報ポータル「OpenStandia/Portal」―

オープンソースはデータベースなどミドルウェアですでに多数の採用実績があり、いまではアプリケーションにも積極的に導入されている。アプリケーションにオープンソースを活用することは、独自要件に柔軟に対応できる点でベンダーと顧客の双方にメリットがある。本稿では、オープンソースの企業情報ポータル「Liferay」をカスタマイズした事例を紹介する。

実用性の高いオープンソースのポータル

近年、企業は競争力をより高めるために、グループ企業全体の情報共有や、海外拠点を含めたグローバルな情報共有の体制づくりを目指すようになっている。また、内部統制に関わる情報の共有をグループ企業内やグローバル規模で徹底する観点からも、情報共有システムへのニーズは高まっている。

情報共有の入り口として、企業内外のさまざまなシステムに蓄積された膨大な情報の中から、必要な情報を集約して１つの画面に表示する仕組みが企業情報ポータルである。画面はユーザーの属性に応じたパーソナライズが可能で、管理職用、営業用、技術者用など、職種や役割に応じて自由にレイアウトを変えられるのも特徴である。

企業情報ポータルを利用するユーザーの規模は日々グローバルに拡大するため、ライセンス費用が不要というコスト面や多言語対応といった観点から、オープンソースの利用が有効である。オープンソースの企業情報ポータルには、「Liferay」「XOOPS」「Joomla!」「Jetspeed」「JBoss Portal」などがある。

「Liferay」は他の製品と比較して、①柔軟なアクセス制御、②ユーザーフレンドリーなインタフェース、③多様なユーザーグルーピング機能、④多言語対応（35カ国語）、⑤拡張性の高いアプリケーションプラットフォーム―などの点で優れている。

カスタマイズにも対応する「Liferay」

「Liferay」の画面には“ポートレット”と呼ばれる小規模なアプリケーションが配置されている。「Liferay」にはあらかじめ数十種類のポートレットが用意されており、インストールしてすぐに利用できる。これらの既製のポートレットを利用して必要な機能を実現できるケースも多いだろうが、企業の規模などによっては機能不足や独自要件の追加などに対応するため、カスタマイズのニーズが発生することも多い。

そこで「Liferay」の特徴であるアプリケーションプラットフォームの側面が生きてくる。「Liferay」は豊富なAPI（ソフトウェア開発のための命令や関数）を持ち、既製のポートレットを組み合わせて新しいポートレットを素早く開発できる仕組みが用意されている。これにより、既製のポートレットのソースコードが公開されていることと併せて、高

レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。すべての内容は日本の著作権法及び国際条約により保護されています。
Copyright © 2010 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.

野村総合研究所
情報技術本部
オープンソースソリューション推進室
テクニカルエンジニア
藤崎祥見（ふじさきしょうけん）
専門はオープンソースを利用したシステムの開発

表1 「Liferay」拡張の事例

NRIによる主な拡張	項　目	内　容
他のオープンソースとの組み合わせ	グループウェア「アイポ」を導入	「Liferay」とのシングルサインオンを実現するために独自拡張したポートレットで呼び出し、「Liferay」の画面とシームレスなUIを実現。スケジュール共有に加え施設予約機能も実装しており、会議予約がワンストップで可能となっている。
新規ポートレットの開発	ワークフローのポートレットを開発	新規にワークフローを開発。いつ・誰が・何を（申請・承認）したかの記録・検索が可能。内部統制を支援する。
既存ポートレットの修正	表示画面・文言変更	顧客の既存業務に適合するように画面や文言を変更した。
運用ツールの開発	LDAPからユーザーを作成	LDAPのディレクトリサービスから「Liferay」のユーザーを作成する。顧客は既存のシステムでユーザー管理が可能。

「アイポ」：スケジュール管理、ワークフロー、メール、ブログなどの機能を持つオープンソースのグループウェア
LDAP：Lightweight Directory Access Protocol。ネットワーク上のハードウェアやユーザーを管理するディレクトリサービスのアクセスプロトコル

機能なアプリケーションを迅速に開発できる。

野村総合研究所（NRI）オープンソースソリューション推進室では、「Liferay」をベースに300件以上のバグの修正と機能追加を行った「OpenStandia/Portal」を開発しソリューションとして提供している。不足している機能を新規ポートレットとして開発し、他のオープンソースと組み合わせて顧客のニーズに応えた品質の高いソリューションとしたものである（表1参照）。

オープンソースを使いこなす技術力が必要

企業情報ポータルのような社内情報共有システムの構築には、商用ソフトウェア製品のほか、「Google Apps」や「Salesforce CRM」のようなSaaS（Software as a Service：ソフトウェアをインターネットを通じてサービスとして利用する仕組み）を使用する方法もあるが、企業の独自要件に合わせて柔軟にカスタマイズできる点ではやはりオープンソースが有利である。

しかし一方で、オープンソース製品の多くは、開発や保守に必要なマニュアルやQ&Aなどが十分に整備されているわけではない。

従って、ベンダーがオープンソースのカスタマイズやソリューション開発を請け負う際には、ソフトウェア全体のアーキテクチャやロジックを理解し、どこに問題があるかを発見して適切な修正を加えられる総合的な“基盤力”が求められる。このほか、顧客の業務要件を理解して適切にシステムに実装していく“アプリケーション力”、独自に開発したソースコードと元々のオープンソースとを継続的に維持していく“維持管理力”などさまざまなスキルやノウハウが必要である。

オープンソースの成熟度が増し、企業の導入事例も増えていくにつれ、要件に応じてカスタマイズできる技術など、オープンソースを使いこなす技術力がベンダーの差別化要素となるだろう。 ■

レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。すべての内容は日本の著作権法及び国際条約により保護されています。
Copyright © 2010 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.